

番号	5	平成30年度公共事業再評価調書		担当課名 道路整備課		
事業名	道路改築事業		事業主体	静岡県		
箇所名	いっばんこくどう おおじろかくふく 一般国道473号 大代拡幅		関係市町村	島田市		
事業採択年度	平成 26 年度		計画期間	平成26年度 ~ 平成39年度		
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 32 年度		
再評価理由	事業採択(H26)後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円 3,500	投資状況 (百万円)	~H28年度 57	H29年度 30	H30年度見込 200	計 287
事業概要	<p>(1)事業目的 一般国道473号大代拡幅は、 ①新東名高速道路島田金谷ICと国道1号大代ICとを結び、規格の高い道路と一体となった道路ネットワーク強化による交通の円滑化 ②産業・観光活性化への寄与 ③地域課題の解消 を目的とする。</p> <p>(2)事業内容 計画概要: 延長1,400m(道路工1,400m) 計画幅員 車道13.0m(全幅25.0m)4車線</p>					
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会情勢等の変化 ・平成28年2月 新東名愛知県区間(浜松いなさJCT~豊田東JCT)の開通 ・静岡空港の搭乗者数がH28→H29で約1.1倍増加 ・静岡空港の貨物取扱量がH28→H29で約1.4倍増加 ・事業区間に位置する五和駅構内踏切が平成29年1月に法指定踏切に指定(市道島竹下線) ・新東名島田金谷IC周辺に、県内最大規模のマルシェや6次産業化関連施設等が整備中</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(H30)の分析結果: B/C=1.74 ・総便益(B) 46.26億円 走行時間短縮便益 44.30億円、走行経費減少便益 0.64億円、 交通事故減少便益 1.32億円 ・総費用(C) 26.60億円 建設投資額 26.91億円、維持管理費 0.43億円、用地残存価値 0.74億円 ・国が進める国道1号島田金谷バイパスや県が進める国道473号金谷相良道路Ⅱと一体となり、南北の道路ネットワークが強化され、富士山静岡空港へのアクセス性向上や、県内最大規模のマルシェ等の整備により産業・観光活性化への寄与に期待。</p> <p>(3)事業の進捗状況 【事業費】 8.2%(H30年度末見込み:287百万円/3,500百万円) 【事業量】 0.0% 0m/1,100m 【用地面積】 0.9% 105㎡/11,500㎡ 【工事費】 0.3%(H30年度末見込み:3百万円/935百万円)</p>					
	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	国と事業計画の調整をしながら、今年度、本格的に用地取得を進めていくこととしている。早期整備効果の発現を目指し、交差点間単位で部分供用を図る等、効率的に事業を推進していく。					
	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	国が進める国道1号大代ICの改良工事及び、市が進める市道島竹下線の改良工事と連携し、工程調整や工事ヤードの共有等を図り、コスト縮減を図っていく。					
対応方針案	<p>(1)対応方針案 本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、国道1号島田金谷バイパスの4車線化、国道473号金谷相良道路Ⅱの整備と密接に関係し、円滑な交通を確保するものであり、また、新東名高速道路や国道1号等の規格の高い道路と一体となった広域道路ネットワークの強化につながる。B/Cが1.74であり、事業を継続し早期完成を図る。</p>					

番号	5	平成30年度公共事業再評価調書		担当課名 道路整備課		
事業名	道路改築事業		事業主体	静岡県		
箇所名	いっばんこくどう おおじろかくふく 一般国道473号 大代拡幅		関係市町村	島田市		
事業採択年度	平成 26 年度		計画期間	平成26年度 ~ 平成39年度		
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 32 年度		
再評価理由	事業採択(H26)後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円 3,500	投資状況 (百万円)	~H28年度 57	H29年度 30	H30年度見込 200	計 287
事業概要	<p>(1)事業目的 一般国道473号大代拡幅は、 ①新東名高速道路島田金谷ICと国道1号大代ICとを結び、規格の高い道路と一体となった道路ネットワーク強化による交通の円滑化 ②産業・観光活性化への寄与 ③地域課題の解消 を目的とする。</p> <p>(2)事業内容 計画概要: 延長1,400m(道路工1,400m) 計画幅員 車道13.0m(全幅25.0m)4車線</p>					
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会情勢等の変化 ・平成28年2月 新東名愛知県区間(浜松いなさJCT~豊田東JCT)の開通 ・静岡空港の搭乗者数がH28→H29で約1.1倍増加 ・静岡空港の貨物取扱量がH28→H29で約1.4倍増加 ・事業区間に位置する五和駅構内踏切が平成29年1月に法指定踏切に指定(市道島竹下線) ・新東名島田金谷IC周辺に、県内最大規模のマルシェや6次産業化関連施設等が整備中</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(H30)の分析結果: B/C=1.74 ・総便益(B) 46.26億円 走行時間短縮便益 44.30億円、走行経費減少便益 0.64億円、 交通事故減少便益 1.32億円 ・総費用(C) 26.60億円 建設投資額 26.91億円、維持管理費 0.43億円、用地残存価値 0.74億円 ・国が進める国道1号島田金谷バイパスや県が進める国道473号金谷相良道路Ⅱと一体となり、南北の道路ネットワークが強化され、富士山静岡空港へのアクセス性向上や、県内最大規模のマルシェ等の整備により産業・観光活性化への寄与に期待。</p> <p>(3)事業の進捗状況 【事業費】 8.2%(H30年度末見込み:287百万円/3,500百万円) 【事業量】 0.0% 0m/1,100m 【用地面積】 0.9% 105㎡/11,500㎡ 【工事費】 0.3%(H30年度末見込み:3百万円/935百万円)</p>					
	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	国と事業計画の調整をしながら、今年度、本格的に用地取得を進めていくこととしている。早期整備効果の発現を目指し、交差点間単位で部分供用を図る等、効率的に事業を推進していく。					
	評価	継続が妥当・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない				
【視点3】 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性	国が進める国道1号大代ICの改良工事及び、市が進める市道島竹下線の改良工事と連携し、工程調整や工事ヤードの共有等を図り、コスト縮減を図っていく。					
対応方針案	<p>(1)対応方針案 本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、国道1号島田金谷バイパスの4車線化、国道473号金谷相良道路Ⅱの整備と密接に関係し、円滑な交通を確保するものであり、また、新東名高速道路や国道1号等の規格の高い道路と一体となった広域道路ネットワークの強化につながる。B/Cが1.74であり、事業を継続し早期完成を図る。</p>					

一般国道473号 大代拡幅

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成30年2月)

総括表

I) 総便益 B	46.26 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] － [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	26.60 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.74

I) 総便益Bの算出

①各種費用のH42^{※1}の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	2,517.04	431.10	43.36	2,991.51
整備した場合 B	2,513.69	431.04	43.27	2,988.00

便益	3.35	0.06	0.10	3.51
A - B	時間短縮便益	経費減少便益	事故減少便益	

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル（国土交通省）」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総費用 (億円)
総便益 (H40～H89)	44.30	0.64	1.32	46.26

II) 総費用Cの算出

[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
26.17	26.91	310.66	0.43	0.74	26.60

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年々次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

一般国道473号 大代拡幅

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成30年2月)

総括表

I) 総便益 B	46.26 億円
総便益 = [評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] － [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	26.60 億円
総費用 = [当該計画道路の建設投資額] + [当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.74

I) 総便益Bの算出

①各種費用のH42^{※1}の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	2,517.04	431.10	43.36	2,991.51
整備した場合 B	2,513.69	431.04	43.27	2,988.00

便益	3.35	0.06	0.10	3.51
A - B	時間短縮便益	経費減少便益	事故減少便益	

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル（国土交通省）」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総費用 (億円)
総便益 (H40～H89)	44.30	0.64	1.32	46.26

… B

II) 総費用Cの算出

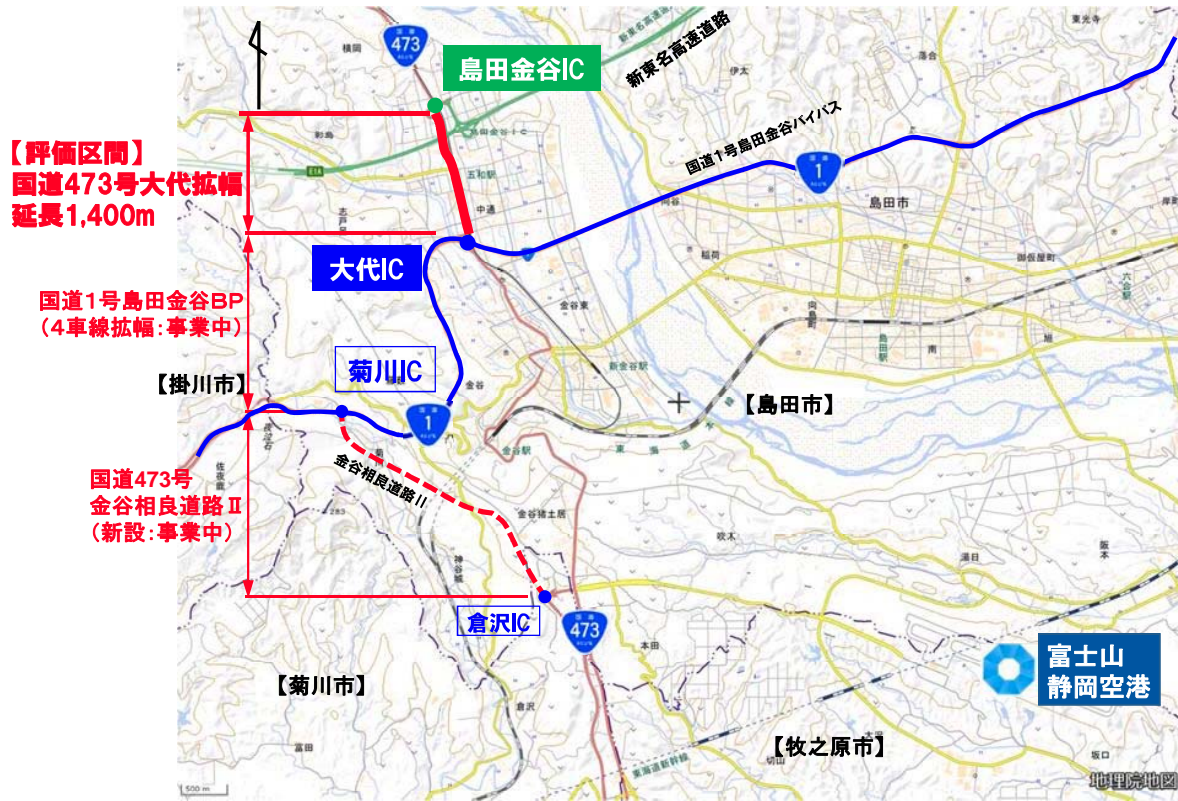
[総費用] = [建設投資額] + [維持管理費] - [用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費用 (万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
26.17	26.91	310.66	0.43	0.74	26.60

… C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年々次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

対象路線及び事業の位置



出典：地理院地図(GSI Maps)を元に静岡県作成

事業の概要及び目的

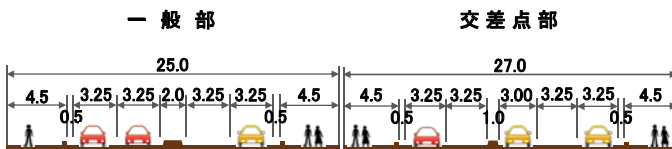
【事業概要】

事業期間：平成26年度～平成39年度
 事業延長：1,400m
 車道幅員：車道13.0m、歩道4.5×2(全幅25.0m)
 車線数：4車線(現道拡幅)
 事業費：3,500百万円

【事業目的】

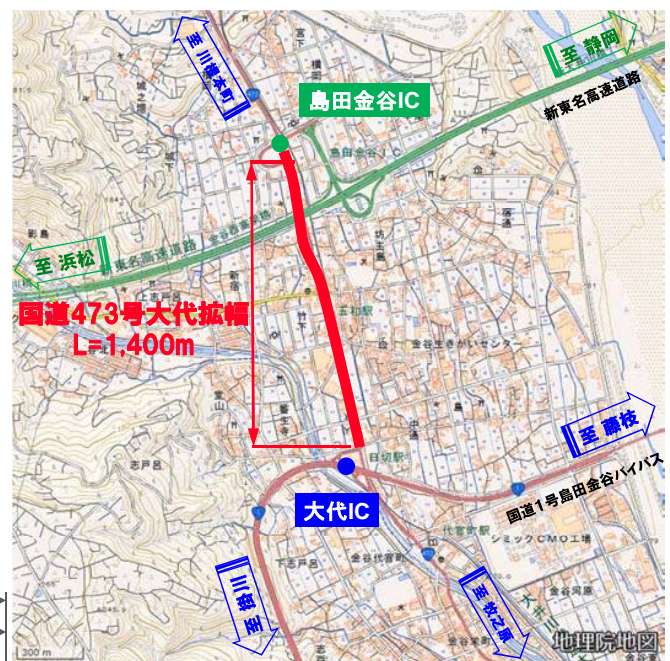
交通の円滑化
 産業・観光活性化への寄与
 その他の効果(地球環境の改善)

標準横断面図



単位：m

平面図

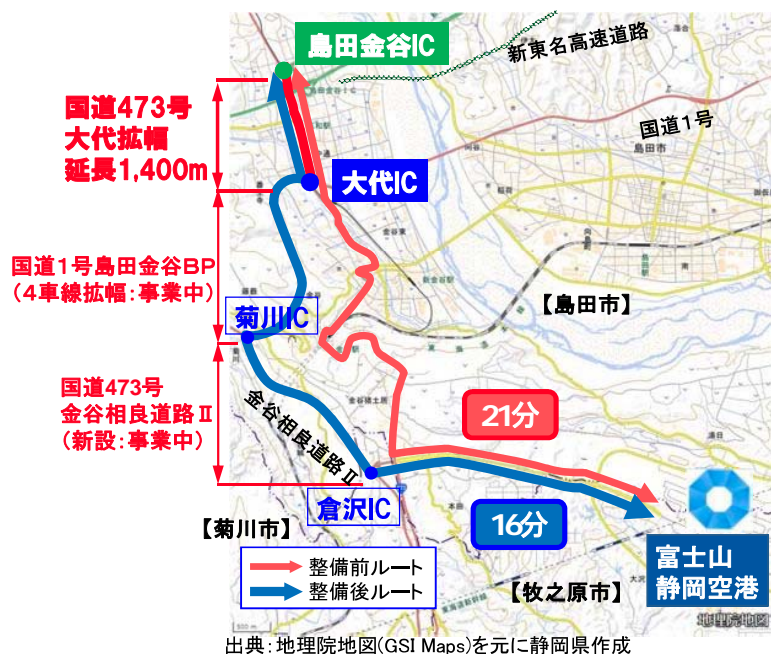


出典：地理院地図(GSI Maps)を元に静岡県作成

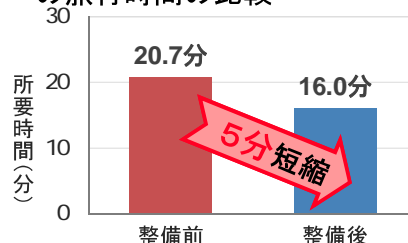
事業の投資効果

交通の円滑化

- 新東名高速道路や国道1号からの空港等へのアクセス向上
- ・富士山静岡空港へのアクセス性の向上が期待できる。



◎島田金谷IC～富士山静岡空港間の旅行時間の比較

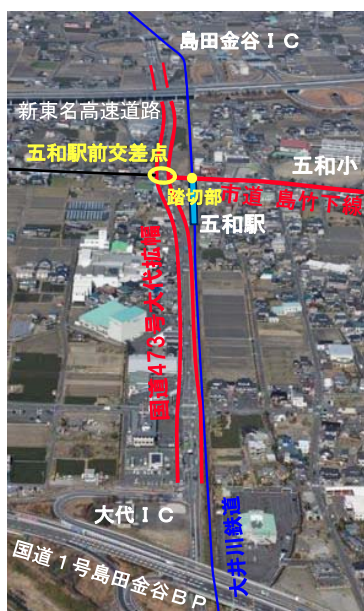


出典：H27道路交通センサス、H29年度交通量推計結果(静岡県)

事業の投資効果

交通の円滑化

- 安全性の向上
- ・当該事業と併せ、市道の歩道設置(踏切拡幅含む)により、交通の円滑性、通学路の安全性の向上が期待できる。



◎大井川鐵道と市道島竹下線の踏切部の利用状況 (市道島竹下線から踏切を望む)



〔市道島竹下線の改良(踏切拡幅含む)と国道473号大代拡幅のうち五和駅前交差点改良を時期を併せ実施予定〕

事業の投資効果

産業・観光活性化への寄与

■新規企業の立地・支援

- ・島田市は、新東名の島田金谷IC周辺地区を『賑わい交流拠点』として県内最大のマルシェの整備、6次産業化関連施設等の整備を進めている。
- ・富士山静岡空港からアクセスが容易となり、集客施設や産業の誘致など、新規企業の立地・支援が期待できる。



出典：島田市HP(ゾーン名を加筆)

